

根管治療 に関する説明

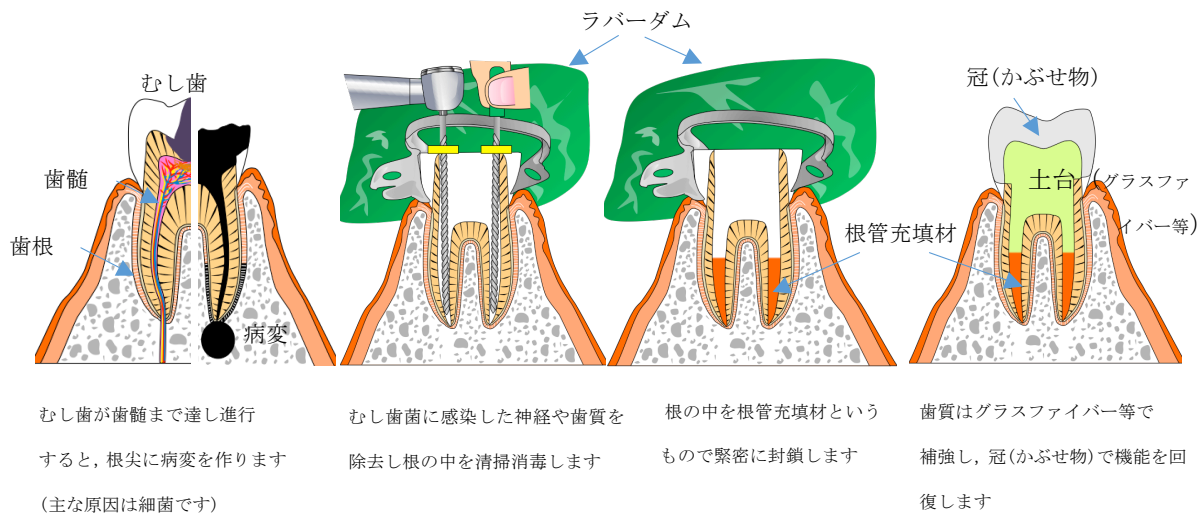
歯の根の治療は根管治療と言い、歯内療法と呼ばれる分野の代表的治療法です。根管治療は、長期にわたり歯を残すことを目的に行われます。お口の健康を維持し豊かな人生を送るために、とても重要な治療法です。医療面接、口腔内診査およびエックス線検査(必要であれば CT)をした上で診断、治療方針 を決定し治療を行います。

I 現在根管治療が必要と診断される歯の部位と治療方法

部位 

治療法: ラバーダム(ゴムのシート)で口の中と患歯(治療する歯)を隔離し唾液による細菌感染を防ぎながら神経の入っていた歯根の中の管(根管)を清掃消毒し、炎症が落ち着いてきたら、細菌が侵入しないように根管を緊密に封鎖していきます。

根管の形態は大変複雑で感染や炎症の広がりも様々ですので確実な治療には時間と回数が必要です。また全ての歯が完全に治療できない場合があることを御理解下さい。



II 治療に付随しての注意点及び合併症とリスク

- 1) 局所麻酔を使用する場合、一時的に気分が悪くなる場合があります。また 1~2 時間程度痺れが残りますので注意して下さい。
- 2) 患歯に装着されている金属等の冠(被せ物)や詰め物、土台(グラスファイバーや金属等)は原則的に除去して治療します。その際健全な歯質の一部を削らざるを得ない場合があります。歯の根に破折や広範囲なむし歯が認められる場合、あるいは治療中の穿孔が生じた場合は通常の根管治療では予後不良のため、外科的歯内療法へ治療方針を変更することがあります。また治療が困難と認められた場合はやむを得ず抜歯となることもあります。
- 3) 予防策を遵守していても治療中に器具が根管の中で折れることがあります。その際はエックス線写真等で確認し、除去が必要かそのままでも問題がないかの診断を行い、その後の対応を決めます。外科的処置や抜歯となる場合もあります。
- 4) 治療前には自覚症状がなかった歯でも、治療後に一時的に痛みや腫れがでることがあります。

ます。通常は数日から 1 週間程度落ち着いてきます。また症状によっては抗生剤の投与や切開が必要な場合があります。

5) 現在の学問的知識, 材料, 技術では成功率は 100%ではありません。歯の状態によっては治療の難しい場合も有ります。また, 治らないと思われる歯の場合, 別の治療法 (抜歯等) を提案する場合があります。

6) 治療において予想される合併症とリスクの全てを把握すること, また全てを記載することはできません。記載していない合併症が起きることがあることをご理解ください。

III 患者さんへの注意事項

1) 安全な処置を行うために治療中は歯科医師の指示に従って下さい。

2) 治療期間は患歯の状態により, 長くなる場合があります。

3) 患者さんの都合で治療の間隔を空けすぎたり治療を中断された場合, 予後不良の原因となります。

4) 治療後の歯は, なるべく早く冠 (被せ物) や詰め物等の修復処置を受けてください。根管治療が終了しただけで放置されますと再発, 歯の破折, 噛み合わせの不具合等の問題が起こる可能性があります。

.....

根管治療 に関する同意書

御理解頂けた項目にチェックを入れて下さい。

- () 現在 根管治療 が必要と診断される歯の部位と治療方法
- () 治療に付随しての注意点及び合併症とリスク
- () 患者さんへの注意事項

西暦 20 年 月 日 説明歯科医師氏名

私は上記のとおり, 根管治療について説明を受け, その内容を理解し, 承諾しましたので, 必要な処置を受けることに同意, 希望します。

西暦 20 年 月 日 患者氏名 (自署)
代承者 (続柄)

※本文書の著作権は 日本歯内療法学会または原著作者その他の権利者に帰属します。詳細は, 日本歯内療法学会 のサイト「著作権について」のページをご覧ください。